

研究種目：基盤研究(G)  
研究期間：2007年度～2010年度  
課題番号：19530159  
研究課題名(和文) アンチコモنزの研究

研究課題名(英文) RESEARCH ON ANTICOMMONS PROBLEM

研究代表者

廣川 みどり (HIROKAWA MIDORI)  
法政大学・経済学部・教授  
研究者番号：20228828

研究代表者の専門分野：経済学  
科研費の分科・細目：経済理論、経済政策  
キーワード：アンチコモنز、交渉、規制

1. 研究計画の概要

複数の主体が共有地(もしくは財)を自由に使用することが許されているとき、それぞれの使用主体がその土地の最適な使用水準よりも過剰な消費を行なうことは「共有地(コモنز)の悲劇」として知られている。これは、共有地がどの主体にとってもアクセス可能であることから生ずる現象である。共有地の悲劇の問題は、ゲーム理論において「囚人のディレンマ」の問題としてとらえられ、多くの研究がなされている。

それに対し、ひとつの財について複数の主体が使用の制限の権利を有するとき、それらの権利が互いの主体の十分な使用を妨げ、使用・消費水準が過小になることがある。これを「アンチコモنزの悲劇」という。例えば、ひとつの製品に多くの特許がかけられ、それらの特許を有する主体が異なるときには、主体間の調整が十分に働かず、高価格・過小生産の事態を招く。本研究では、このアンチコモنزの問題を理論的に検討するものである。

アンチコモنزの問題のポイントは、複数の主体が「補完的な財(例えば特許の例では、複数の特許がお互いにセットになってはじめて製品にむすびつく想定)」を「各主体が独占的に」供給するために、調整がうまくなされたならば各主体が得られたであろう利益が減少するという点にある。ここから、調整または交渉の可能性をさぐる点が問題のポイントになってくる。これを中心として、余剰分析、調整費用の問題、長期的な効果の分析、コモنزの問題との比較、意思決定の問題等に取り組むものとする。

2. 研究の進捗状況

一年目には先行論文を見つつ、小さなモデルを構築した。それがいくつかの学会と研究会とで報告した論文(Richard Cornes 教授との共著となる”A Bargaining Model of the Anticommons”)である。本報告書の「概要」の部分で述べたように、アンチコモنزは調整の問題が重要である。ここでは、財に関わる当該の主体に調整を行なわせるのではなく、それとは異なる主体(たとえば政府)に一括した窓口をまかせ、当該の主体たちに、その窓口で調整交渉させる可能性を考えた。調整のコストを考えれば、当該主体ごとの(一対一の)交渉は、当該主体の数が増えるにつれて爆発的に増える。それに比べ、一括した調整窓口を置き、当該主体と窓口との交渉とすれば調整費用は相対的に安く押さえられることになる。こうした窓口設置が好ましいか否かは、調整の費用と主体の数とに依存する。

この論文については、いくつかの学会とセミナーとで報告を行い、さまざまなコメントを受けた。そこでは、廣川が勘違いしていた部分や、さらにアンチコモنزに関わる多くの問題があらわになり、検討課題が山積みとなってしまった。たとえば、アンチコモنزの問題には多くの例が挙げられており、問題自体をどのように考えるべきなのか、また政府がそのような規制を行なうことが現実的なことなのか、といった問題があたり、より説得的なモデルビルディングの必要性を感じた。また、特許や財産権の問題や、コモنزの悲劇との双対性などの問題にも心を奪われ、関心が散逸的になってしまった。そのため、研究が具体的な形に至っていないこと

が大いなる反省点である。

### 3. 現在までの達成度

本報告書の前項に述べたように、残念ながら「④遅れている」と言わざるを得ない。一年目にはそれなりに小さなモデルを作ったものの、コメントを様々に受けて、その処理への方針がなかなか立っていないこと、また、様々な関心に引きずられてしまったことが大きな要因である。また、研究期間がまだあるということで、途中で小さくまとめてしまうことを恐れた気持ちもある。

### 4. 今後の研究の推進方策

ともあれ、(1) まずはアンチコモンズ自体の問題をきちんと定式化すること。次に、(2) 当初作った小さなモデルについて、捨てるべきところは捨てる、結実させること。(3) その上で余力があれば、ほかの問題にも取り組んでいくこと（そのさいに、(2)を優先させること）という形で、進めていきたい。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計3件)

- ① Hirokawa, M. and Cornes, R. “A Bargaining Model on the Anticommons,” チェコ・ジャパン・セミナー、2007年9月17日、チェコ。
- ② Hirokawa, M. and Cornes, R. “A Bargaining Model on the Anticommons,” エコノメトリック・ソサエティ・ヨーロッパアン・ミーティング、2007年8月30日、ハンガリー。
- ③ Hirokawa, M. and Cornes, R. “A Bargaining Model on the Anticommons,” IIPF(国際財政学会)、2007年8月27日、ウォーウィック大学(イギリス)。